


平成25年度課題解決支援講座(佐賀市立鍋島公民館)を開催しました

佐賀県立生涯学習センターでは市町と公民館との共同企画で、地域課題の解決に向けて取り組む講座を開催しています。佐賀市教育委員会、佐賀市立鍋島公民館との共催で、「防災」をテーマに開催した講座の様子をお伝えします。

 ※講座チラシ(274KB; PDFファイル)

「やられる前の防災学」～わたしたちのまち鍋島を守る～ (3回講座)

鍋島校区の各自治会長、消防団のみなさんを中心に、30代から80代と幅広い世代の方と一緒に防災について学びました。講師の小林 紀[みち]さん(県防災士会事務局長)には、避難所運営のポイントや災害への備えについて、幅広い視点から語っていただきました。また、自主防災活動に熱心な武雄市朝日町高橋区への現地研修も行い、今後の活動へのヒントを探りました。講座最終回は、「鍋島校区の防災への取組み」について一人ひとりの考えや想いを語り合いながら、「こんな取組みあったらいいね!」を参加者全員で共有しました。

第1回「突然の災害! その時あなたはどう動く!」

■平成25年11月22日(金)19時～21時 (会場: 鍋島公民館)



避難所運営を模擬体験するカードゲーム「HUG(ハグ)」から講座をスタートしました。机上の避難所見取図に、次々避難してくる人に見立てたカードを、どのように配置していくか模擬体験するものです。どう運営するのか方法に正解はなく、この体験ではいろんな対応にパニックになりながら、その対処法を考えていくのが狙いと言われました。避難所運営の難しさや、いざという時に備えた訓練の必要性を学びました。

※HUGはH(hinanzyo避難所)、U(unnei運営)、G(gameゲーム)の頭文字を取ったもの。英語で「抱きしめる」という意味です。避難者を優しく受け入れる避難所のイメージと重ね合わせて名付けられました。(静岡県で開発)





各テーブル一斉にカードが読み上げられ、避難所に設定した鍋島小学校体育館見取図上で「HUG(ハグ)」がスタート。出入口や通路の確保、誰に協力してもらうかなど、さまざまな意見が飛び交っていました。グループ発表では「初めての訓練で手間取った」「考えれば考えるほど対処方法が難しい。どこかで線引きする勇気も必要」など、さまざまな課題や反省が述べられました。



避難所運営では、まず受付がポイントとなります。受付は避難者の名前を記録するだけでなく、避難者数を把握したり、家族構成や健康状態の確認など、様々な対応が求められるところです。受付の対応が後あとの運営全体に活かされることを学びました。

第2回「ご近所力と防災力を考える」(現地研修:武雄市朝日町高橋区)

■平成25年12月14日(土)10時～12時(会場:武雄市朝日公民館)





朝日町高橋区自主防災会は、平成18年度に武雄市の指定を受け発足しました。区長で自主防災会長の朝重ともしげさんに、これまで幾度となく襲われてきた水害被害の話を伺い、自主防災会発足の経緯や活動状況について説明を受けました。「役員が毎年変わる」「住民の危機意識にも温度差がある」などの課題もあげられ、研修の必要性や自助・共助の意識を高める取組みの大切さについて、あらためて考える機会となりました。

※朝日公民館と高橋区のみなさんには、朝早くから受入準備をしていただき、有意義な研修となりました。ありがとうございました！



講話の後、高橋区のみち歩きを行いました。実際歩いてみると、4～6m程の高低差があるといわれた高橋区の地形を肌で感じることができました。また、高橋区の電柱には、住民の防災意識を高めるために防災サイン(想定浸水域と避難場所の表示)が設置されていました。



防災倉庫の見学も行いました。防災用具一覧として品名、数量を記載した表も用意され、倉庫内は誰でもわかるよう収納されていました。「防災用具はいざという時、誰でも使えるように訓練しておくことも必要」「これは鍋島でも用意した方がいいね」という声があがっていました。

第3回「自分・家族・地域を守るために」

■平成26年1月17日(金)19時～21時 (会場:鍋島公民館)



いよいよ講座最終日。この日は、公民館職員と地域の助っ人で炊き出した「おでん」をみんなでいただきながら、講座をまとめたDVDでこれまでの学びを振り返りました。講師からは「災害時は行政職員も被災者の一人。行政からの支援を待つだけでなく、地域のことは地域でやれるように」と、住民自身が考え、行動する大切さを呼びかけられました。講座の後半は、「鍋島校区での防災への取組み」について考えるワークを行いました。グループ発表では、すぐに実践できることから時間はかかるが大事だと思う取組みまで、多彩な内容の提案があがりました。



各テーブルのワークシートが、一人ひとりの提案で埋まっていきました。避難所運営の模擬体験や現地研修で学んだこと、気づいたことも語られていました。みんなで集まって考えると色々な意見が出てきますね。



グループ発表では、防災に備える取組みとして「家族で避難方法や安否確認の取り方を話し合う」「近所の人と顔なじみになる」など、コミュニケーションを図ることが大切という内容が多くあげられていました。地域の中で暮らす私たち一人ひとりのちょっとした心がけが、地域の防災力につながることを再認識しました。

講座での学びを、それぞれの家庭や地域で一つでも行動に変えていくことができれば、災害に強いまちづくりへの一歩になると思います。

● 参加者の声 (各回アンケートより抜粋)

- 現実災害が起きたらどうするか、真剣にみんなで考えることができた。(1回目)
- 避難所運営の難しさを痛感。実際の運営での大変さがわかった。(1回目)
- 自然災害に想定外はありえない。きちんと向き合っていく必要性を感じた。(2回目)
- 防災に対する取組みや役割分担が明確だと、住民の災害への意識向上が図れると思う。(2回目)
- 他の自治会の方と話ができてよかった。(3回目)
- このように話し合える場、時間があればいいと思う。このことが何より大事だと思う。(3回目)

講座を終えて・・・

